

# 令和3年産 コメ通信

第5号（令和3年6月28日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課  
（電話0186-62-1835）

## 確実な中干しで茎の充実を！

### 1 気象経過と生育状況

#### 【気象経過】

5月下旬は降水量が多く日照不足が続きました。6月始めは雨があつたものの日照時間が多くなりました。また、6月の気温は最高・平均・最低ともに平年より高くなりました。

仙台管区气象台より、東北北部は6月19日に、平年より4日遅く梅雨入りしたとみられています。

6月24日に仙台管区气象台が発表した1か月予報によると、東北地方の向こう1か月の気象は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多い見込みです。いもち病の発生等に注意して適切なほ場管理を行ってください。

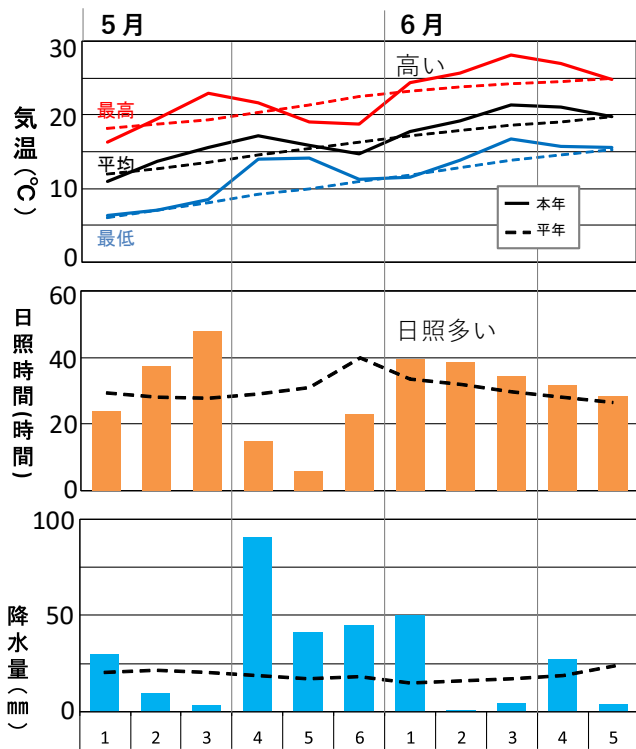


図 気象経過図（アメダス鷹巣）

#### 【生育状況：定点調査結果】

6月25日現在の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種あきたこまち）の生育は、草丈・葉色は平年並み、葉数は平年よりやや多くなっています。茎数は471本/m<sup>2</sup>で平年よりやや少なくなっています。

茎数について、6月10日の調査で平年比7割程度と非常に少なくなっていました。今回は9割を超えました。6月に入ってから、気温が高く好天が続いたことで生育が回復したとみられます。

低水温やワキ等の影響で一部生育停滞したほ場もありますが、ほとんどのほ場で目標本数（400～450本/m<sup>2</sup>）を確保しています。

#### 定点調査結果（6月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色
本年	39.8	471	9.2	44.3
平年	39.3	508	8.9	43.9
前年	40.8	547	9.1	42.8
平年比較	101%	93%	0.3	101%
前年比較	98%	86%	0.1	104%

※平年は過去10か年の平均値

※葉色はSPAD-502で測定した値

## 2 今後の水管理

### 【中干しによる弱勢茎の抑制】

- 目標穂数と同数の茎数（あきたこまち70株植で株20本程度、60株植で株25本程度）を確保しているほ場が多く見られるため、直ちに中干しに入りましょう。
- 茎数のほ場間差が大きいことから、各ほ場の生育状況を確認して的確な中干しにより弱勢茎を抑制し、有効茎の充実を図ります。
- 中干し期間は7～10日間程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡のつく程度とします。終了後は間断かん水により土壌を酸化的に保ち、根の伸長を促進します。
- カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を行います。長期間の湛水管理に備え、中干しは早めにしっかりと行います。

## 3 主要病害虫の防除対策

▼飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください▼

### 【いもち病】

- 補植用余り苗からのいもち病が見られました。強力な伝染源となりますので、泥の中に埋めるなどして、完全に処分してください。※水田から畦畔に移動するだけでは防除対策になりません。
- 北秋田管内では、大館では6月13日に感染好適日が確認されています。感染した場合は、6月25日以降に病斑が確認できますので、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を散布してください。

#### ◆ラブサイド剤の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」の総使用回数は3回以内です。農薬は使用のつど帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

### 【斑点米カメムシ類】

- 斑点米カメムシ類は、休耕田や畦畔等のイネ科雑草で増殖し、これらが水田に侵入して加害します。昨年斑点米の多かったほ場では、今年も発生が多くなる予想されます。
- 出穂する10～15日前までに、畦畔や休耕田、雑草地を対象に、地域でまとまって草刈りを徹底して行い、斑点米カメムシ類の生息地における密度低下に努めます。
- アカスジカスミカメは、水田内にカヤツリグサ科（ホタルイ類など）やノビエが多発していると、その雑草の穂に産卵・増殖します。本年は雑草の発生が多く見られるため、水稻除草剤を適切に使用し、水田内の雑草防除を徹底しましょう。

### 【コバネイナゴ】

- ここ数年、コバネイナゴの発生が多く見られます。株あたり0.5頭以上の発生が見られる場合は、7月中にトレボン剤またはMr. ジョーカー剤で、畦畔を含めて防除してください。

## 4 中・後期除草剤の適正な使用

- 水田内で雑草が繁茂しているほ場が確認されています。中・後期除草剤の使用にあたっては、雑草の草種や生育程度に応じて適切な剤を選択してください。散布時期や散布時の水管理は、剤によって異なるのでラベルをよく読んで適正に使用してください。

問い合わせはJA、または農業振興普及課まで

HPは「北秋田 コメ通信」で  ～次回発行は7月上旬予定～

